

報 告

報告 鹿児島大学シニア短期留学

鹿児島大学 法文学部 4年 加治屋 麻衣

シニア短期留学の概要

2006年11月～12月、鹿児島大学では初めての試みとして「鹿児島大学シニア短期留学」が開催されました。わたしは学生ボランティアという立場で、この企画に参加させていただきました。

2006年度のシニア短期留学は、11月26日（日）から12月9日（土）までの14日間実施されました。参加者は東京や関西の方を中心に11名、鹿児島市内から参加の方も1名いらっしゃいました。年齢層は60代が最も多く、最年長は79歳の女性でした。このシニア短期留学の特徴は、地元NPO法人がプログラム運営に関わっているところです。「NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会」の東川隆太郎さん、寺園美和さんらが協力され、地元ならではの知識と経験で、より現場に近い視点からのガイドが可能となりました。大学で学ぶというだけあって、毎回の講義とアクティビティの後には、参加者の方が抱いた感想をレポートにして提出することが求められ、学習の記録を残していきました。

以下、参加者の感想を織り交ぜながら全日程をまとめます。

1日目 11月26日（日）

ホテルチェックイン後、ドルフィンポート内「新穂花」にて開講式。奄美料理と島唄ライブを堪能しました。

2日目 11月27日（月）

- ・ 講義1「オリエンテーション」ここでは「見れども見えず」をテーマに、プログラムの目的や概要を説明。大学施設ならびにスタッフの紹介を行いました。
- ・ 講義2「鹿児島を科学する」生涯学習教育研究センターの松野教授が担当、「明治維新と鹿児島」の授業書を通して鹿児島の歴史と地理を科学的な視点から分析し、新しい鹿児島の姿を解説しました。
- ・ アクティビティ「鹿児島大学キャンパスウォーク」
「NPO法人かごしま探検の会」がガイドをつとめ

ます。参加者のみなさんは学生に戻った気分でキャンパスを散策し、キャンパス内の森や農園、田の神様などをじっくりと見学しました。この日は、このキャンパスウォークを楽しみにされていた参加者の方も多かったようで、「今回一番してみたかったのが、鹿児島大学キャンパスウォークです。思わず新入生になった気持で心はずんでおります」との感想がありました。

3日目 11月28日（火）

- ・ 講義3「鹿児島の自然を診断する」理学部の根建教授が、桜島をはじめ、鹿児島の地形、地質などの自然特性についての講義を行いました。
- ・ 講義4「鹿児島の自然と暮らしの進化」鹿児島県立博物館にて、博物館の寺田主任学芸員が、温帯から亜熱帯へと南北に長い気候がもたらした鹿児島の恵まれた自然環境を、さまざまな植物に注目して講義をされました。鹿児島の自然について、参加者の感想には、「鹿児島半島は生きている。恵まれた立地条件の上に良い気候条件が重なり、豊富な植物群、まるでジャングルの様であると思う。植物、動物等、あらゆる生あるものは環境に合った生を謳歌している」、「人間の生産物以外に身近な自然の恵みが四季折々に存在し、豊穡の海と陸の島だったのだなあと思います」などありました。
- ・ アクティビティ「城山巡検」 「NPO法人くすの木自然館」の立山さんがガイドを担当し、自然のオアシスともいえる、城山の遊歩道を実際にゆっくり歩きながら自然観察を楽しみました。

4日目 11月29日（水）

- ・ 講義5「薩摩藩の歴史—徳川家と島津家—」法文学部の原口教授による「鹿児島探訪」の講義を学生とともに受講しました。徳川家第13代将軍家定に

嫁いだ天璋院篤姫の生涯を通して、幕末における徳川家と島津家の関係をみていきました。「とてもかっこいい女性である篤姫！今、現代の世に生を受けていたとしたら…進んでいると思えるのです。面白いだろうと」、「来年の大河ドラマ「篤姫」を、歴史を通して考え、見ることができることは、無上の喜びに感ずるところです。鹿児島を知る、理解することは、一地域の文化・歴史を語るだけでなく、日本を語ることと感じました」などの感想がありました。みなさん原口先生の授業を心待ちにしていたようで、熱心に先生のお話に耳を傾けていました。

- ・ **講義6 + アクティビティ「さつま金山蔵 巡検」** いちき串木野市にあるさつま金山蔵を見学しました。この地はもともと金鉱山であり、実際に使われていた坑道をトロッコに乗りながらしのぶことができます。また、かごしま探検の会の東川さんが「産業遺産、世間遺産」をテーマに講演を行いました。鹿児島に金山があったことを初めて知ったという方が多かったのと、東川さんの鹿児島弁を交えた軽快な語り口が、参加者の皆さんの心をつかんだようです。「東川先生に弟子入り(笑)して、いろいろな所をまわって学びたい気持ちです」、「世間遺産は大変面白い。これぞ人間の生活文化が漂っている所ではないでしょうか。楽しい授業でした」などの感想がありました。

5日目 11月30日(木)

- ・ **講義7「焼酎ゼロエミッションへの挑戦」** 水産学部の江幡助手が、焼酎生産に伴う産業廃棄物の新しい資源利用の試みについて講義しました。焼酎ブームの裏側にある、最先端の技術を紹介しました。
- ・ **講義8「焼酎と黒酢」** 共通教育の「鹿児島探訪」の授業を受講しました。鹿児島県工業技術センター主任研究員の瀬戸口眞治さんが、焼酎とともに鹿児島の発酵文化を代表する黒酢をテーマに、黒酢の特徴や焼酎との違いについて講義しました。

6日目 12月1日(金)

- ・ **講義9「日本史概説」** 法文学部の専門科目である、原口

教授の「日本史概説」の講義を学生とともに受講しました。

- ・ **講義10 + アクティビティ「知覧、指宿・今和泉 巡検」**

教室での講義の後は、武家屋敷や特攻基地で知られる知覧と、砂蒸し温泉で有名な指宿市を巡検しました。指宿市今和泉地区は、天璋院篤姫の出身地でもあります。篤姫ゆかりの土地から、歴史のロマンへと思いを馳せました。「知覧・指宿巡検はメインテーマのひとつで、実に好天に恵まれ最高の日となった。薩摩藩の武士団は優れているとはいえ、贅沢な屋敷に住み、実に羨ましい」、「お天気にめぐまれ、ふだん所用で来て見る桜島と開聞岳、今回勉強しながらながめる景色の違いは心のゆとりでしょうか。出逢いは、すばらしい。そこから信頼、愛、友情が、そして愛が始まる出逢いをいつも私は大切にしていきたいです」との感想がありました。南薩の美しい風景と、天候に恵まれたこともあり、参加者の方々にとって思い出深い時間になりました。

7日目 12月2日(土),

8日目 12月3日(日)(自由研修)

9日目 12月4日(月)

- ・ **講義11「温泉の分子模型作り」** 温泉水の分子や原子が見えたなら？松野教授が公開講座で行っている分子模型作り講座をシニアの方々にも体験してもらいました。学生ボランティアと一緒に、温泉成分の分子模型を作成しました。工作の時間ともいえる授業に、参加者の方々みなさん童心に戻られたように楽しんでいらっしゃいました。
- ・ **講義12「鹿児島の温泉」** 「鹿児島の水博士」といわれる元理学部教授の坂元隼雄先生が、県内の温泉をフィールドワークしてきた経験から、鹿児島の温泉の効用をはじめ、場所による違い、温泉水の活用法などについてお話されました。
- ・ **アクティビティ(選択)「鹿児島の温泉めぐり」** 温泉についての講義の後は、鹿児島大学周辺の銭湯めぐりです。実際に鹿児島の温泉に入浴し、心も身体もリラックスしました「今回、大学東側に位置する中村温泉にチャレンジした。久しぶりにのびの

びとした湯に入ることができ、ラッキーでした。次は、桜島が見える、新とそ温泉にチャレンジしようと思っています」、「鹿児島県人の性格の穏やかな親切で思いやりの有る所は、普段温泉によく入り、疲れがとれて気分が良い為ではないか、と考えています」などの感想がありました。

10日目 12月5日(火)

- ・ 講義 13・14 (現地研修)「鹿児島の山は宝の山」 農学部
の井倉准教授のガイドで、鹿児島大学の高隈演習林を散策しながら、鹿児島の森林を通して環境と人とのかかわりを考えました。その後、鹿児島大学が提携している垂水市大野地区にて、地域の自然学校の取り組みを紹介しました。この日は鹿屋市のアジア・太平洋農村研修センターに宿泊しました。

11日目 12月6日(水)

- ・ 講義 15・16 「鹿児島の海は牧場だった」 水産学部練習船「南星丸」に乗船し、水産学部の野呂忠秀教授が錦江湾の豊かな生態系について講義されました。船内の見学や、海中のプランクトンを採集し顕微鏡での観察も行いました。「南星丸での講義、学校もよいけれど場所をかえての勉強がよかった。目に見えない位小さなプランクトンが一生懸命生きていく様子が顕微鏡に見えて、感動」と書いた方もいました。
- ・ アクティビティ(選択) 「桜島めぐり」 「NPO法人桜島ミュージアム」理事の福島大輔さんが桜島を案内しました。桜島は、フェリーから見る姿とはまた違った姿を見せてくれます。大正噴火のメカニズムや、当時と現在の風景を比較しながら散策しました。また、海岸では砂浜を掘って湧き出た天然の足湯を堪能しました。「桜島を周回することで、自然のすばらしさと桜島の迫力ある姿を見て感動した」、「鹿児島県における、NPO法人の皆さんの郷土を愛する熱き思いをひしひしと感じました」と、船内での講義や、桜島めぐりは大変好評だったようです。

12日目 12月7日(木)

- ・ 講義 17 「薩摩藩の歴史世界」 原口教授が担当している法文学部の専門科目「日本史演習」を受講しました。
- ・ 講義 18 + アクティビティ 「薩摩藩の歴史と薩摩焼の体験(現地研修)」 薩摩藩の産業であった薩摩焼の歴史を勉強したのち、薩摩焼の生産地として有名な、旧東市来町(現いちき串木野市)の美山を訪ね、窯元や焼き物ゆかりの史跡を見学しました。

13日目 12月8日(金)

- ・ 講義 19「シンポジウム」 講義をつとめた講師をパネリストに迎え、二週間を振り返りながら、座談会形式でプログラムの総括を行いました。運営側と参加者側の意見交換を通して、今回の短期留学の評価すべき点、改善点などが挙げられました。
- ・ 講義 20 修了式 参加者一人ひとりに修了証書を手渡しました。また、講義レポートも学習の記録として返却しました。修了式、写真撮影の後には、学内にてパーティを行いました。

参加者からの要望

今回のシニア短期留学は、2008年の大河ドラマ「天璋院篤姫」を前面に押し出したものでもあり、原口教授の授業をはじめ、薩摩藩・島津家の歴史を楽しみにいらしゃった方も多かったようです。また、鹿児島の特色である温泉や、海や山といった環境に注目した講義も好評を得ていました。鹿児島の地を直に見て触れることの出来る体験を通して、皆さん鹿児島をさらに好きになられたようです。

最終日のシンポジウムの際には、今後に向けて再考が必要だと考えられる点もいくつか挙げられました。さまざまな意見が出ましたが、おおまかに意見をまとめますと、

- ・ 参加者の中には、学問として理解を深め、高いレベルの講義を求める人と、それは少し重たい、鹿児島をもっと知り、おいしいものが食べられれば、つまり観光+αを求める人との二つのタイプがあるようです。
- ・ 今回は30名募集で12名の参加でしたが、このくらいの方数が参加者、運営側ともにまとまりやすく良かったとの声が多かったです。
- ・ 宿舎が大学から離れたところ(天文館)にあったため、

何度も行き来が出来ない不便さを訴える人もありました。鹿児島は温泉で有名なのに、宿舎には大浴場が無かったという指摘もありました。

- ・ ある程度専門的な知識を必要とする授業もあったため、事前に講義についての資料を送付して欲しいとの声もありました。
- ・ 学生と議論がしたいという要望もありました。今回の場合は、学生が数名アクティビティに同行するという形でしたが、参加者としてはそれだけでは物足りなく、学生の考えを聞きたいようです。
- ・ 「大学側に学ばせる意図をはっきりと示して欲しい、大学側のねらいを知りたい」という指摘もありました。

さらに、今年の参加者の皆さんで、同窓会「さくら会」(桜島にちなんで)を結成され、会報を発行するなど積極的に活動をされています。今後、このシニア短期留学も回を重ねるにつれ、シニアの方々の「鹿大同窓生」としての広がりもみせていくのではないかと思います。実際に参加者の方がたとお話してみると、みなさん元気で気さくな方ばかりでした。短期間ではありますが、鹿大生という気分を存分に楽しんでいらっしまったようで、そのフレッシュさ、熱心さは、学生顔負けでした。大学は学生だけのものではない、と考えさせられるものでした。

何もかもが初めてで、一からのスタートであった鹿児島大学シニア短期留学ではありますが、一度実施したことで、これをステップにして次へという新たな展望が、わたしのような者にも見えてきました。参加者は皆さん本気で勉強しようと参加しています。このやる気に大学側も応えていくことで、より良いプログラムを提供していくことができるのではないのでしょうか。